

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホームはるなのほな	評価実施年月日	平成21年10月6日
評価実施構成員氏名	猪股久美、相坂幸子、竹山秀一、尾崎智恵子、田澤綾子、駒野文子、青木香奈枝、太田由希、高橋五月、渡辺ひとみ		
記録者氏名	渡辺ひとみ	記録年月日	2009年10月7日

北海道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>「一人ひとりの思いを大切に、自分らしく生活できる自由と安らぎのある家作りを目指します」というグループホームの統一した理念があり、玄関に掲示している。</p>	○	<p>理念に沿えるように話し合いに取り組んでいく。</p>
<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>会議や学習会、研修などで再確認しており、日々理念の実践に取り組んでいる。</p>	○	<p>理念を常に念頭に置き、引き続き取り組んでいく。</p>
<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>	<p>家族には玄関に掲示して、行事や日々のケアを通して理解してもらうよう努力している。また、地域の方にはボランティア導入や、地域交流を行うことで少しずつ理解してもらうことができている。</p>		
2. 地域との支えあい			
<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>毎月の保育所との交流、地域の方が参加できる行事(夏祭り、盆踊り)などを催している。また出勤時などに挨拶を交わすこともある。駐車場の一部(現在は東屋が完成)に花やベンチを置き、立ち寄ってもらい、入居者との交流の場になるよう努めている。</p>	○	<p>東屋が完成したことで、地域の人に気軽に立ち寄ってもらい、もっと関わりをもてるよう取り組んでいく。</p>
<p>○地域とのつきあい</p> <p>5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>グループホームの行事(盆踊りなど)で地域の参加の呼びかけや、実施することで地域の一員として交流することができている。また定期的に保育所との交流を行っている。町内会の行事(花壇の手入れ、バス旅行)は天候不順や長距離であるため参加できていない。</p>	○	<p>今年はあまりできなかった町内会の活動に、参加できるよう取り組んでいく。</p>
<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>地域交流は行っているが、地域の高齢者への支援はどのようなことが必要であり、実施していくかは難しく、行うことができていない。</p>	○	<p>日々の交流を増やし、地域の高齢者の暮らしに役立つことを話し合い、実践に取り組んでいく。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価を行うことで意識を高め職員で共有し、外部評価の結果を話し合い改善に努めている。昨年の結果で、地域交流が上手く行うことができていない部分の改善に取り組むことができています。	○	良い方向になるよう努めていく。また新人職員は、今回の評価で改善点を把握し取り組んでいく。
8 ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	自己評価や外部評価の結果は必ず報告し、意見を聞き、改善などしている。		
9 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	市担当者の運営推進会議への参加はないが、制度上わからない事などについては、出向きアドバイスを受けている。		
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	法人内外の研修や学習会などで学ぶ機会はあるが、それを活用できるまでの知識はまだない。	○	学習会や研修で理解を深め知識向上に努める。
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	法人内外の研修や学習会を行い、防止に努めている。また、法人、グループホーム内で拘束廃止委員会があり、常に拘束や虐待につながることはないか話し合いを行っている。	○	今後も防止するよう努めていく。
4. 理念を実践するための体制			
12 ○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居時や退居時には、質問など聞き、分かりやすいように説明している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>13 ○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>入居者や家族から、意見や不満を話してもらえる関係ができています。意見や不満があった場合は会議などで報告があり、話し合うことができています。また、法人内では第三者委員会を設置しており、そこでも苦情についての話し合いが行われている。</p>	○	<p>苦情がないよう努めていく。</p>
<p>14 ○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。</p>	<p>面会時や必要に応じて電話で内容を伝え、理解してもらっている。また広報紙を発行しており、近状報告もできている。</p>	○	<p>今後も個々に合わせた報告を行っていく。</p>
<p>15 ○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>家族懇談会や運営推進委員会を設けており、話し合った内容を会議で伝え、運営に反映することができている。</p>	○	<p>今後も意見、不満等があった場合は、対応策を職員で話し合っていきたい。</p>
<p>16 ○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>グループホーム会議、ユニット会議などで職員の意見、提案を伝える機会を設けている。また個人面談も行っている。</p>		
<p>17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。</p>	<p>昨年よりは、職員数は確保されている。3ユニット兼務職員の役割を各ユニットの状況に合わせて、検討している。</p>		
<p>18 ○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>離職数は減少している。ユニット及び法人内異動は年に1～2回である。その際、敏感な入居者に関しては、すぐには関わらないなど配慮している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	グループホーム内では年計画をたて、学習会を開催している。法人内では、職員の経験年数や職種別などに分け、様々な内容で研修を行っている。また、道のグループホーム協議会の研修などにも参加している。		
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	管理者は、管内や市のグループホーム協議会の役員会で交流している。また職員は外部の研修や交流会などに参加し、交流している。		
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	日々悩みなどを聞くようにしている。親睦会もあり、ストレスの解消の場となっている。		
22 ○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	個人面談を行い、1年間の目標の設定や希望など聞き取り組んでいる。また、正職員補充の際は、現職員の中からなれるようにしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23 ○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	会話の機会を多く持ち、その中から本人の思いを理解し受け止めるよう努力している。	○	初期の場合は特に不安になるが、それ以外でも不安になることを常に考え、日々の会話や行動からくみ取り受け止めていく。
24 ○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	面会時に本人の日々の状況を伝えながら、会話の機会を作り、相談ごとがあれば、それを受け止めるよう努力している。	○	ご家族との関係を密にして、会話を増やすことを努力して行っていく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談を受けた際は、介護保険の認定を受けているかを確認し、受けていなければ申請を勧め、場合により手続き方法を説明している。また、すぐに、入居できなくサービスを利用していなく、サービス利用の必要性がある場合は、相談先や手続きなどを説明している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	住み慣れた生活の場から離れることでの混乱などを話し、なじみの物の使用などを伝えている。	○	サービス利用前、他職種と連携するなど工夫しながら、少しずつ関係を築き、徐々に慣れ安心してサービス利用が行えるよう取り組んでいく。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	人生の先輩として様々なことを学び、ケアの中に取り入れながら、一緒に家庭的な雰囲気作りを行っている。	○	できることとできないことを見極め、日常生活の中で学ぶこと、楽しいことを行う関係づくりを維持できるよう努めていく。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	日々の暮らしの情報を家族と共有し、行事の参加などで楽しさを実感してもらい、一緒に支え合う支援を行っている。	○	面会時に話し合う時間を多くし、一緒に楽しい生活が送れるよう支え合う関係作りに取り組んでいく。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	家庭環境や家庭状況の違いを理解し、本人や家族の思いを考え、より良い関係作りを支援している。	○	本人らしい生活と、より良い関係が作れるよう対応していく。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	友人との面会や個別の外出で、なじみの場所に行くことができている方もいる。	○	機会を増やし実践に向けて取り組んでいく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	入居者間の相性や性格を把握しており、個々のペースに合わせた対応を行っている。	○	入居者同士の橋渡しをさらにできるよう共通の話題を提供していく。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	入院し、解約になっても、次の行き先が決まるまで相談したり、見舞いにいったりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	会話や動作から希望をさぐり、できるかぎり本人の思いや意向に沿うように取り組んでいる。困難な場合などはカンファレンスで話し合っている。	○	今後も本人の希望を反映できるよう努力していく。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	カルテにある生活歴を読んだり、コミュニケーションをとりながら暮らしの情報を共有し、把握することに努めている。	○	今後も本人との会話の中から、把握していくよう努める。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	日々の行動や言動から変化を判断しながら、現状を職員間で共有するため、連絡ノートなどを活用している。	○	これからも努力していく。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	本人や家族の意向を聞きながら、その人らしい生活が送れるようスタッフと話し合い、介護計画を作成するよう努力している。	○	変化する課題に対応できるケアを行うため、それにあつた介護計画の作成に向けて努力していく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	3ヶ月に1回の見直しを行っている。変化が生じた場合、現状に即した新たな介護計画を作成するよう努めている。		
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	毎日、記録をパソコンに入力し、情報を共有している。介護計画にそった個別の対応などの記録もできるかぎり記入し、カンファレンスで話し合うことができている。	○	以前より介護計画に沿った記録ができていないか、さらに努力が必要であると考え、今後も継続して行っていく。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	法人内の事業所の行事の参加などを行っている。個別の来訪もできるかぎり希望に沿うよう行っている。	○	入居前にデイサービスを利用している方もおり、なじみの関係が継続できるよう、回数を増やしていく。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	保育所との交流、ボランティア導入、ボランティアドックの継続を行っている。	○	ボランティアドックを通して、青少年支援の取り組みも支援していく。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	行っていない。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	成年後見について、地域包括支援センターに相談している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	本人のかかりつけ医に受診、往診を行っている。看護師と連携をとりながら適切な医療を受けることができる。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	専門医を講師に招き、学習会が行われている。看護師を通して職員が相談しながら行うことができる。		
45	○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	看護師が常勤しており、スタッフと連携を取りながら、入居者の方の健康管理を行っている。	○	今後も、看護職員、学習会を通して行っていきたい。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院時には看護・介護添書にて、認知症の症状やケアのポイントを伝え、入院時の見舞い、退院時には話し合いをしている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	本人がどのような終末期を望んでいるかを家族と話し合い、それをカンファレンスや会議で共有することができる。	○	重度化した場合は早い段階から対応に取り組んでいく。また、終末期のあり方の知識を身につけていく。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	グループホームでできるケアを考え、かかりつけ医、家族と話し合い、できるかぎりの変化に備えた支援に取り組んでいる。		より良く暮らせるように早い段階からの対応に取り組んでいく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>49 ○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>環境が変わることで、認知症の症状がすまないうように異動の際は、家族や関係者になじみの物を置くなどの情報を交換している。</p>	○	<p>今後も、本人の暮らしぶりやなじみの物、好みの物の情報を交換してダメージを防ぐことに努めていく。</p>
<p>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>			
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p>			
<p>(1)一人ひとりの尊重</p>			
<p>50 ○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>プライドに配慮した言葉使いを心がけている。個人情報を守り、プライバシーの保護に努めている。</p>	○	<p>言葉使いに関しては常に意識しながら行っていく必要があり、今後も取り組んでいく。またプライバシーに関してはイニシャルで話したり、メモをとることを行っている。</p>
<p>51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>本人の希望を表せるように対応し、自己決定を促している。自己決定が難しいこともあり、その場合はその方の状況を分析し対応している。</p>	○	<p>日々の生活の中から、細かな変化を見逃さないようにし、本人の思いや希望が表すことができるような環境作りに努めていく。</p>
<p>52 ○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>すべての希望に沿うことはできていないが、できるかぎり一人ひとりのペースを大切にしながら努力している。</p>	○	<p>ケア側の都合にならないように、できるだけ本人の希望にそった対応を行っていく。</p>
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>53 ○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>家族と一緒に行きつけの美容室に行っている方や、出張理美容を利用している。また外出などの行事の時には化粧をするなどおしゃれを楽しんでいる。</p>		
<p>54 ○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>メニュー会議前に入居者の好みを聞くなどしている。調理の下ごしらえや盛り付け、後かたづけなどその方のできることに合わせ一緒にしている。</p>	○	<p>これからも、楽しみとなるよう行っていく。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	状況に応じて好みの飲み物を提供している。献立により、飲酒を楽しんでもらっている。また、家族が持参したお菓子を個々に提供して楽しんでもらっている。	○	今後も、飲酒など楽しんでもらうよう声かけを行っていく。
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄板に記入し、個々にあった排泄パターンを確認しながら、汚染のないようにさりげなくトイレ誘導を行い、気持ちの良い排泄を支援している。	○	身体状況の変化などを察知し、より良い対応のできるかぎりトイレでの排泄を支援していく。
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	往診や受診などもあり入浴日は決まっているが、その日の体調や本人の意向に沿って対応している。また、入居者の方によっては曜日や時間が決まっていたほうがよい方もいるため、決まった日に入浴している。	○	一人ひとりが入浴を楽しめるよう支援していく。
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	一人ひとりのペースがあり、そのペースに合わせて就寝ケアなどを行っている。また、昼間も疲れがみられたときは、休息を促している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	入居者のできることを考え、それぞれの役割を持ち実践している。個別の散歩や買い物なども行い、楽しみを持っているよう支援している。	○	生活の中で個々の残存能力、新たな可能性を探りながら、役割などで意欲的に楽し暮らせるよう支援していく。
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	入居者の能力に応じて、お金の所持や事務所での管理をしている。所持しているお金で買い物をしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	できるかぎり希望にそって外出できるよう努力しているが、外出する場合は事前にスタッフの配置が多い日に行っている。	○	一人ひとりの希望にそった外出ができるよう支援していく。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	個別の外出の他に、ユニット企画で花見などに行き外食している。	○	日々の会話から、本人の思いを引き出して外出を支援していく。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	入居者、家族の希望で電話を設置し自ら家族と連絡している。また遠方の家族の手紙に返事を書く声かけなどの支援を行っている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	家族、友人の面会は自由であり、来所時は居間や居室などでくつろげるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	法人、グループホーム内で身体拘束廃止委員会があり、拘束につながらないよう、ベッド柵やコールマットの状況を話し合い、その結果を会議などで伝え、各ユニットでも必要性を話し合っている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	夜間(夜勤者1人)のみの時は、入居者の安全のため鍵をかけている。それ以外は鍵をかけていない。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	昼間は職員間で連携しながら、入居者の所在の確認をしている。夜間はプライバシーに配慮しながら定時の訪室、それ以外でも歩行状態が不安定な方はこまめに訪室している。	○	見守りの引き継ぎなど、スタッフ間の連携を取っていく。
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	入居者の状況に応じて、危険でないものは自己管理してもらい、危険性のある場合は、保管管理している。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	事故防止委員会があり、原因、分析などを行い、職員に周知し事故防止に取り組んでいる。また緊急時の対応の学習会があり、個々の防止策も話し合っている。	○	今後も、事故のないよう努力していく。
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	学習会で急変時の対応などの指導を受けている。緊急の体制も話し合いがあり、重度化の入居者がいる場合は他ユニットの協力もできている。	○	今後も学習会などで知識の向上にむけ勉強していく。また、マニュアルは時々確認し緊急時に備えるようにしていく。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	定期的な避難訓練を実施している。法人が地域の協力の要請、協力体制はできている。		
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	認知症の進行、ADLの低下に伴い、生活で起こる可能性のあることを伝えている。事故などが起こった場合はすぐに連絡し今後のことも話し合っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎日のバイタルチェックや普段との様子の違いを勤務職員で確認し、体調の変化を発見した場合は看護師に報告している。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	カルテにある処方箋をみて、理解を深める努力はしているが、すべての薬の把握は難しい。	○	すべての薬の把握は難しいこともあり、重要な薬の目的や副作用、用法を処方箋確認したり、看護師に聞き理解を深めていく。
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	排便パターンの確認をしながら、薬でコントロールしている。また運動や水分量のチェックも行っている。		
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後、声かけで、できるところは自力で行ってもらい、不十分な部分は介助している。時にできていない入居者もいる。	○	時にできていない入居者の方もおり、今後も声かけ支援していく。
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量の低下で低栄養の入居者には、エンシュアなどを提供している。また体重増加やカロリーを控えている入居者には、適量の食事の提供を行っている。水分は日々チェックしながら、1度にたくさんではなく、こまめに提供している。	○	食事量が低下している方には、食べやすいよう声かけや工夫を行い、少しでも多く食べられるよう支援していく。
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウィルス等)	感染マニュアルがあり、外出時の手洗いうがいを徹底している。感染流行前に看護師より、随時話しがある。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	毎日、まな板は布巾などの消毒、台所の掃除を行い、週一回の冷蔵庫掃除を実施している。また食材は新鮮なものを使用している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	グループホームの玄関横に花壇やベンチを置き、現在は東屋を造り親しみやすい雰囲気作りを行っている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節の花は飾りをして楽しんでもらっている。共有スペースはバリアフリーであり、適度な照明、日光を取り入れている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	居間のソファや食卓、玄関前の椅子など思い思いに過ごせる空間がある。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	使い慣れたなじみの物(タンスや鏡台など)を使用している。また、家族が本人の好みの物を飾っている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	空気の入替え、床暖やパネルヒーターでの温度調節を行っている。室温ともに湿度のチェックを行い、洗濯物やタオルで湿度の調整も行っている。	○	扇風機を上手に使用したり、入居者の状況に合わせてこまめな窓の開閉を行い過ごしやすい環境を作っていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85 ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している。	廊下やトイレに手すりがあり、バリアフリーになっており、安全に配慮している。		
86 ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	個々のできることでできないことを話し合い、それを見極め混乱や失敗のないように支援している。		
87 ○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	グループホーム玄関には東屋を建設している。ユニットのベランダにはプランターを置き花や苗を育て収穫したりしながら楽しんでいる。		

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<ul style="list-style-type: none"> ① 毎日ある ② 数日に1回程度ある ③ たまにある ④ ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての家族 ② 家族の2/3くらい ③ 家族の1/3くらい ④ ほとんどできていない

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
96	<p>通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている</p> <p>①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない</p>
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働けている</p> <p>①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

- (日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)
- ・婦人部を立ち上げていること。
 - ・充実した設備の中で、なじみの関係作りに加え、地域や外部(ボランティア、保育園児)との交流に力を入れている。
 - ・入居者のニーズに応じて、婦人部会の発足など、インフォーマルなサービスを自ら作り行っている。